

令和元年度 第1回 嘉瀬川・六角川・松浦川 学識者懇談会  
【議事概要】

日 時：令和元年9月13日(金)15:30～17:00  
場 所：武雄河川事務所佐賀庁舎 1階会議室

【委員（敬称略 50音順）】

佐賀大学 教授	(委員)	大串 浩一郎
佐賀大学 准教授	(委員)	押川 英夫
佐賀大学 名誉教授	(委員)	古賀 憲一
佐賀大学 教授	(委員)	重藤 輝幸 [欠席]
佐賀大学 准教授	(委員)	徳田 誠 [欠席]
佐賀大学 教授	(委員)	山西 博幸 [欠席]
佐賀大学 教授	(委員)	山本 長次
佐賀大学 名誉教授	(委員長)	渡邊 訓甫

【委員長の選出】

- 渡邊委員にお願いすることで全会一致。

【規約等の確認】

- 事務局より、規約の改正について、規約第8条に基づき、委員の3分の2以上の同意を確認した。
- 委員長より、規約第4条に基づき、委員の2分の1の出席を確認。本懇談会が成立していることを認める。と宣言。

【議事要旨（委：委員、事：事務局）】

1) 嘉瀬川総合水系環境整備事業の再評価について

委： 便益の算出根拠はどうなっているのか。

事： 年間の支払意思額と世帯数を積算し、施設完成後50年分の便益を足し合わせることで算出している。

委： 集計範囲については、環境整備箇所に近いところと、そうでないところでは、支払意思額に差があるのかと思う。対象の環境整備事業箇所から近くに住んでいる世帯に絞った価格とそうでないところでは結果(満足度や支払意思額)に違いが出るのではないか。

事：集計範囲についてはマニュアルに従って設定している。嘉瀬川ダム地区では、事前にWEBアンケートを実施し、認知度を分析した上で受益範囲を半径20km圏内に設定している。その他も基本的には手引きに沿って設定しており、半径10km圏内に設定した上で、流域内に絞っている。

委：対応方針（14ページ）で、佐賀市のまちづくりの重点プロジェクトについて言及されているが、急に出てくることに違和感がある。関係性を説明する必要があるのではないか。

事：関係性を説明する内容を記載します。

委：かわまちづくり支援制度は、関係している市町がNPO等と一緒に取り組んでいくことを国交省が支援する制度である。連携していくことが理想である。うまくいっている事例では多くの住民が集まっている。嘉瀬川流域にはいい素材がたくさんあるので、嘉瀬川も他事例を参考にしながら活性化していけると良いのではないかな。

事：他の地域の事例を参考に嘉瀬川でも取り入れられる部分について参考にします。

委：総事業費（10ページ）について、前回評価時と今回評価時に違いがないのはなぜか。新工法等の採用による新たなコスト削減の成果等は反映されていないのか。

事：環境整備事業は規模が小さいため、大幅な費用削減が難しいが、継続中の嘉瀬川ダムでは工夫しながら進めているところである。

## 2) 令和元年度の事業内容について

委：六角川洪水調整池について、貯水した水の排水はポンプで行うのか。また満杯から全部出すまでの時間はどの程度か。

事：ポンプの能力によるため正確な時間は申し上げられないが、全部排水するので時間はかからないと考えている。

委：貯水した水を活用する（利水）予定はあるのか。また、制度上可能なのか。

事：不特定用水なので制度上は可能だがいつ水が入るか分からないので現時点で利水として位置付ける予定はない。今回の調整池は治水が目的であり、洪水を調節するための容量を空けておく必要がある。

委：六角川洪水調整池について、元々はどのような採石場か。  
事：P7に示しているように、ダムを予定していた堅い岩盤がある場所である。砕石を行っている場所にあり、直轄に編入し河川整備計画に位置付けた。

委：3水系の事業予算額を教えてください。  
事：昨年度は約40億円であり、本年度は約60億円である。  
委：どの河川が予算規模として大きいのか。  
事：六角川が最も多い。

委：東山田地区で堆積土砂の撤去を行っているのはどのあたりか。  
事：堆積状況によるので流動的である。確認する。H30年度（H31実施）は川上頭首工下流を予定していたが、石井樋付近の堆積状況が顕著なため、堆積状況を確認しながら撤去する場所を決めて実施する予定である。

委：六角川洪水調整池の内部は国のものになるのか。砕石は続けられるのか。  
事：調整池の中は全て国のものになる。まだ砕石は終わっていないが、工事が終わった後は掘らない。

委：貯水池内は自由に使えるのか。  
事：そこはまだ考えていない。

委：築堤や伐採の場所はどうやって決めているのか。  
事：実際繁茂しているところを調査したり、河川全体でのネック箇所や危険度分布を出したりして、重点的に対策を行う必要がある箇所を決定して優先的に行っている。

### 3) その他（令和元年8月豪雨の出水概要）

委：P17について、8/28の雨量と水位のピークが一致していないが、これは他の場所の雨が入っているということか。  
事：確認させていただきたい。

委：P20の嘉瀬川右岸の天端の亀裂については、以前からあったものか。  
事：今回の法面崩壊に伴い生じた亀裂である。今回は応急復旧を行い、本復旧は今後検討して実施する。  
委：この場所で堤防が被災した理由は何か。何も無いところでおきている。  
事：要因は検証中である。

- 委 : P13 でピークのずれがあるが、その理由は何か。
- 事 : 雨量の観測所はピンポイントなので、雨量を的確にとらえていない可能性はある。
- 委 : 近年線状降水帯のような雨になると、今の観測所だけでは不十分な可能性はある。他の観測地点のデータを使用して補完できるものなのか。
- 事 : 自治体や気象庁など国交省以外の観測地点のデータを確認する。
- 委 : P3 の雨量を見ると、今回の出水では矢筈では他地点と比較すると雨量が少なく、調整池を作っても効かないような雨である。牛津川中流域の左岸から流入しているようである。今回の六角川の整備メニューで今回の雨量がどこまでさばけるか。
- 事 : 今回の洪水を分析し、県や市と相談しながら牛津川のメニューを検討していきたい。
- 委 : 六角川と牛津川は河川の特徴が違うため、別に考える必要がある。
- 委 : P14 の写真の下 2 枚の河川名は誤植ではないか。
- 事 : ご指摘のとおり修正する。
- 事 : 今後、六角川の河川整備計画を見直すことを検討しており、年度内に数回懇談会を開催する可能性があるため、ご協力いただきたい。

#### 4) 最後に

- 事 : 最後に、嘉瀬川の総合水系環境整備事業について、事業継続についてはご了承いただいたということでよろしいか。
- 委 : 異議なし。